

「まちなかクールシェア・コンサート with コロナ」 の開催について

The Cool share Concert in Utsunomiya

内 藤 英 二 (宇都宮共和大学 教授)

本研究は、宇都宮共和大学シティライフ学部内藤マーケティング論ゼミ所属学生による「まちなかクールシェア・コンサート with コロナ」開催に関する研究レポートです。コンサートは宇都宮市環境部、栃木県地球温暖化防止活動推進センター等の支援を得て、地域住民の方々の理解のもと、2014年から7、8月期に開催され、7年間で通算14回を迎えました。2020年の開催に当たっては新型コロナウイルスの感染拡大にともない、参加者総数や出演者数等、規模の縮小、開催時間の短縮、消毒や換気等の運営方法について、試行錯誤の末に、多くの対策が講じられました。本稿が、厳しい制約条件のなかで、地域振興のために各種のイベント開催を計画されている方々の、何らかの参考になれば幸いです。

キーワード：クールシェア、もったいない運動、新型コロナウイルス、感染防止対策

1 まちなかクールシェア・コンサート開催の経緯について

「クールシェア」とは、一般家庭の電力消費がピークを迎える午後に、エアコンを止めて外出し、空調の効いた公共の場所などで涼しさを分かち合おうという、省エネ、地球温暖化防止のための活動のひとつです。

宇都宮共和大学では、宇都宮市環境部が事務局を担当している「宇都宮市もったいない運動市民会議（以下、市民会議）」のメンバーとなっており、市民会議が主導する「もったいない運動」の一環として、シティライフ学部のある宇都宮シティキャンパスを活用して、2014年から毎年7月と8月に「まちなかクールシェア・コンサート（以下、コンサート）」を実施しています。

コンサート開催に至る経緯については、行政、地域、大学それぞれのニーズが関連しています。

まず、行政サイドのニーズとしては、市民会議よりメンバーとなっている市内の各種教育機関に対して、クールシェア活動普及のために具体的な対策を実施して欲しいという要請がありました。宇都宮共和大学では、これを受けて、例年、12月に宇都宮シティキャンパスの本館1階エ

ントランス・ホールで実施されてきた「まちなかクリスマス・コンサート」を参考に、7月と8月に「まちなかクールシェア・コンサート」を実施することになり、現在に至っています。

コンサート開催の第2の要因は、宇都宮シティキャンパス周辺地域の住民の方たちから寄せられた要望でした。特に、宇都宮市東地区連合自治会を通じては、周辺地域の住民の皆さんが参加している合唱やダンスなど各種の趣味のサークルや団体が日ごろの活動の成果を発表する場所を探している。また、周辺地域のプロの演奏家を目指す若いアーティストに発表の場を提供したい、という要望があり、コンサートはこれらの要望に応じる目的もあって、開催されることになりました。

第3の要因は、市民会議に委員として参加しているシティライフ学部教員（本研究ノートの執筆者内藤）が主導するゼミナールの活動目標が関連しています。内藤ゼミでは、マーケティング論の知識を活用して、宇都宮シティキャンパスの施設を利用し、周辺地域のために何ができるかを考え、実行することを活動目標の一つとして掲げており、コンサートはこの目標達成のために格好の活動として、例年、内藤ゼミ所属の学生が中心となって開催され、学生たちは例年のコンサート参加者数を計測して、節約できた電力量等を試算し、それらの結果をもとに卒業論文等を執筆するなど、自身の研究にも役立てています。

2 コンサート開催に際しての感染症防止対策

2020年は、新型コロナウイルスの感染拡大というかつて経験したことのない大きな問題の発生を見て、学生たちは感染防止対策を講じながらのコンサートの開催という課題達成に挑戦することになりました。事前の対策として検討されたのは以下の3点でした。

2.1 会場レイアウトの再検討

ソーシャルディスタンスを確保する必要上、例年、コンサート会場として活用していた本館1階エントランスホールのレイアウトを再検討する必要性がありました。3年生のゼミ生を中心にエントランスホールの計測を実施した結果、ステージから観客席の最前列までの距離と併せて観客席の前後左右にも一定の距離を確保した場合、観客席の為のスペースが不足し、観客席数が不足することが想定されたため、会場を本館2階学生ホールに移動することとなりました。

本館2階学生ホールでは、過去に数回、コンサートを実施した経験がありましたが、エントランスホールの場合と同様に、ソーシャルディスタンスを確保した場合、十分な観客席スペースを確保することは困難に思われましたが、吹き抜けで2階部分とつながっている3階学生ホールも観客席として活用することで、変則的なレイアウトではありますがある程度の観客席スペースが確保できるのではないかという結論に達しました。

新しいコンサート会場のレイアウトを図示すれば以下の図1の通りです。まず、学生ホール東側壁面から4メートルの幅で南北約9.8メートルのスペースをステージとして設定します。東側壁面から4メートルの位置には、縦・横ともに1.8メートルのビニール製の飛沫防止シールドを5基設置し、観客席との境界線とします。飛沫防止シールドから1メートル離れた位置から、学生ホールの4人掛けテーブルと椅子を設置して観客席とします。

ステージ中央，東側壁面から2メートルの位置にマイクを設置し，観客席最前列から出演者までの距離を3メートル確保し，間に飛沫防止シールドを設置するという配置で，ひとつの客席から計測して前後左右に1.8メートル以上の距離を確保した場合，20～25人程度のスペースが確保できる計算となります。

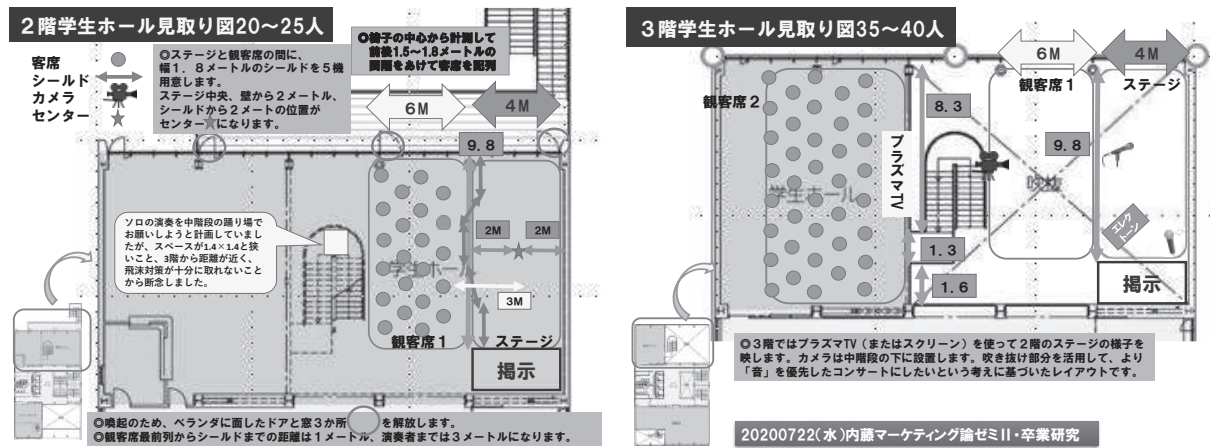


図1 第13回まちなかクールシェア・コンサート会場レイアウト図

学生ホール3階には2階のステージとつながっている吹き抜けに対して，2階観客席と同様のソーシャルディスタンスを確保した座席配置で35～40人程度のスペースが設営できる計算なので，コンサートの観客席数は最大で65人程度となることが分かりました。

3階学生ホールの手すり前には，講義室やゼミ室に設置されているプラズマディスプレイを配置して，ステージの様子を見ながら演奏を聴けるような工夫をすることにしました。

コンサート会場内の換気については，会場レイアウトの再検討の際，ゼミ2年生が学生ホール2，3階の空気の流れをシャボン玉を飛ばすことで観測し，学生ホール2階北側にあるドア1か所と窓2か所を全開としておくことで，空気の流れをある程度確保できることが確認できたので，コンサート期間中，これら3か所を常時，全開としておくことになりました。

2.2 飛沫防止シールドの製作

飛沫防止シールドは，第13回コンサート実施に先立つ感染防止対策の一つとして3年生ゼミ生によって製作されました。

その大きさは縦・横共に約180センチメートル。感染防止対策として購入した専用のビニール素材「タフニール」を使用し，上端に袋状の加工を施して，その中に長さ2メートルのアルミニウム製の網戸用パーツを通し，両端に太さ3ミリのナイロン製コードで作ったループを取り付けたものを，全部で5枚製作しました。(図2, 3)

シールドを支える支柱としては，かつてエントランスホールで各種の掲示物を掲示する際に活用されていた有孔ボードの支柱とその台座を流用しました。(図4, 5)

シールドの左右に2本の支柱を立て、支柱の上部にキャンプ用品であるランタンハンガーを取りつけて、シールド上部のループをかけることで自立させることができます。(図6) この方法を採用することにより、複数のシールドを連結して、設置する場所の状況に応じて様々な角度で設置することが可能となりました。



図2 飛沫防止シールド製作風景①



図3 飛沫防止シールド製作風景②



図4 シールド吊下げ用の台座と支柱



図5 ランタンハンガー



図6 シールドの設置テスト

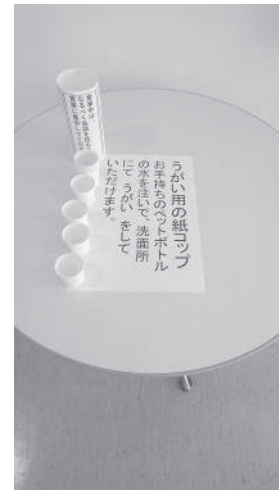


図7 うがい用紙コップ

シールドを構成する各種のパーツのうち、感染防止のための専用品として購入したものはビニールのみであり、その他の、固定用の透明テープ、アルミ製網戸パーツ、ナイロン製コード、ランタンハンガー等は、ホームセンターや百元ショップで購入できる製品を利用したものです。

2.3 コンサート開催中の消毒等各種の対策

コンサート開催中の消毒等の各種対策としては、以下のとおり実施することとしました。

- ①来場者・スタッフ全員のマスクの着用。
- ②1階エントランスホール受付での来場者への検温と手指のアルコール消毒の依頼
- ③同じく受付での希望者配布用マスクの配置
- ④出演者演目終了ごとの除菌シートによる飛沫防止シールドの除菌
- ⑤来場者へのミネラルウォーターペットボトルの配布
- ⑥洗面所付近の丸テーブルへのうがい用紙コップの配置 (図7)

⑦退場時にも来場者への手指のアルコール消毒の依頼

このうち④飛沫防止シールドの消毒作業については、担当者に使い捨て手袋とフェイスシールドを配布し、担当者は作業に際して、常時着用しているマスクの上からさらにフェイスシールドを装着し、1回の作業が終了するたびに手袋を廃棄し、フェイスシールドも消毒するように心がけることにしました。

⑥うがい用コップの配置は、来場者への配慮として、受付にてあらかじめ配布したミネラルウォーターを使って洗面所でのうがいができるよう配慮したものです。

以上のような各種の対策を講じたうえで、2020年7月25日(土)に第13回まちなかクールシェア・コンサートを開催しました。

3 2020年まちなかクールシェア・コンサートの実施

3.1 第13回まちなかクールシェア・コンサート(ミニ)の概要

(1) 開催日程：2020年7月25日(土) 午後1時30分から2時30分

開催時間は感染防止対策の一環として1時間に短縮し、想定する参加者数も同様の目的から観客、出演者、運営スタッフを含めて100人以内とする、実験的なイベントとして位置づけ、コンサートのタイトルに(ミニ)という但し書きを付記しました。

(2) 出演者と演目

コンサートの規模も縮小しての開催となり、出演者とその演目については以下の通りの3つとなりました。

①シティライフ学部アコースティックサークル所属学生有志1名によるオープニングアクト

②宇都宮市もったいない運動市民会議事務局(宇都宮市環境部環境政策課)によるクールシェア周知活動

③音楽デュオ Tomo2Concerto (トモズコンテェルト, 栗田智水さん:フルート, 井上智美さん:エレクトーン) の演奏

(3) 会場構成

コンサートの会場は、当初の計画通りに、中心市街地大通り沿いにある宇都宮シティキャンパスの本館2階と3階の学生ホールを活用しました。(図8, 9) ソーシャルディスタンスを確保するために、3階学生ホールにも観客席を設営し、吹き抜けを介して演奏などが聞けるようにし、2階ステージの様子は拭き抜けに面した3階学生ホールの手すり付近に大型プラズマディスプレイを2台設置して、鑑賞することができるように配慮しました(図10,11)。

(4) 参加者数

コンサート当日の観客席への来場者数については、受付に配置して来場者に配布したプログラム等資料の残部から約30人と推定されました。

その後、当日に撮影した観客席の写真を拡大印刷して、ゼミ2年生が計測した結果、2階、3階の観客席に着席していた人数は31名であることが分かり、運営スタッフ、出演者を含めた参

加者総数は51名となりました。

教員	3名
事務局スタッフ	6名
学生スタッフ	5名
協力団体スタッフ	3名
出演者	3名
来場者（2・3階）	31名
合計	51名



図8 学生ホール2階



図9 学生ホール3階
プラズマディスプレイ配置



図10 3階学生ホールから
2階ステージ、観客席を望む



図11 3階学生ホールのプラズマ
ディスプレイ活用の様子

(5) 第13回コンサートの反省点

コンサート終了後、翌週のゼミの時間に、4年生を中心にコンサートに関する反省点を話し合いました。次回8月の第14回コンサートの開催も踏まえて、主に以下のような意見がありました。

- ①3階に設置したプラズマディスプレイの画質が低く、プロの音（サウンド）に釣り合っていない。
- ②2階と3階に観客席を分ける会場レイアウトは、8月の合唱による演目の多いイベントには不向きである
- ③シールド消毒のタイミングは、出演者の交代の時間ではなく、途中の休憩時間等にしてイ

ベント全体のテンポを乱さないように工夫する必要がある。

- ④シールドの消毒にアルコール消毒液を使うと、曇りが出てきてよく見えなくなることもある。シールドの清掃、消毒にはペーパータオルでの乾拭きやガラスクリーナーを活用している事例を見たことがある。着席する位置にもよるが、視界の妨げとなる場合もある。
- ⑤検温器の数はもう少し多い方が時間の節約になったと思う。
- ⑥8月にも実施するなら、来場予定者に自宅での事前検温を依頼する文言を周知用チラシも入れておくべきだと思う。
- ⑦8月のコンサートについては、8月8日（土）まで計画立案を進め、10日（月）に、感染状況の変化に伴う、県、市、大学の対応を考慮して、実施の有無を決定する。
- ⑧実施する場合には、402大講義室を会場として活用することを検討していく。
- ⑨最前列に座る人はいなかった。
- ⑩シールドは本当に必要なのか。マスク着用ならOKなのではないか。毎回シールドを消毒する必要があるか疑問。マイクなどの使用する機材の消毒は必要だが、シールドを毎回、消毒する必要はないのではないか。
- ⑪作業のタイムスケジュールを事前にはっきりと決めておく必要があると思う。
- ⑫ポスターを多言語で作成し、外国人が良く集まる場所などで配布する。集客に効果的。
- ⑬2階に来場者が集中していたので、3階にも誘導すべきだった。

3.2 第14回まちなかクールシェア・コンサートの概要

(1) 開催日程：2020年8月22日（土）午後1時30分～午後3時

前回コンサートの経験を踏まえて、開催規模と開催時間にある程度の余裕を持たせての開催となりましたが、出演者、運営スタッフ、来場者からなる参加者総数については、100人を超えないように配慮しての開催となりました。

(2) 出演者と演目

第13回の経験を踏まえて、以下の4件の演目を実施しました。

- ①シティライフ学部アコースティックサークル所属学生有志1名によるオープニングアクト
- ②地元女性合唱団コール・デル・ソーレによる合唱
- ③宇都宮市もったいない運動市民会議事務局（宇都宮市環境部環境政策課）によるクールシェア周知活動
- ④ヴァイオリニスト渡邊響子さんの演奏

当初は、コンサート開催以来、毎年、参加の「童謡・抒情歌を歌おう会」の出演も予定されていましたが、客席の来場者の方たちも交えた合唱という、例年の演出の方法が、今回の感染症防止対策を講じてのコンサート実施という趣旨に合わないとの判断で、観客席からの鑑賞のみの参加となりました。

(3) 会場構成

演目数と出演者数の若干の増加を考慮して、コンサート会場を本館4階の402大講義室に変更

しての開催となりました。前回よりも大きな会場であることから、感染症防止対策についても以下の14項目を設定し、実施することとしました。(図12, 13, 14, 15)

- ①受付前に来場者に手のアルコール消毒と検温を依頼する。
- ②観客・スタッフ全員がマスク着用する。
- ③エレベーターは最大5人定員での利用とする。
- ④教壇(3m×8.6m)をステージとする。
- ⑤換気の際は南側(寺町通り沿い)の窓10か所を全開にする。
- ⑥ステージと観客席の間隔を3メートル以上確保。最前列机の前に設置。
- ⑦ステージと観客席の間にシールドを設置し、休憩時間の換気を励行。
シールドは最前列の机の上に支柱を固定して、横1列に5基、全長約9メートルの規模で設置する。
- ⑧最前列の机から数えて3列目から、横に6人ずつ着席(6人×15列=90人)
- ⑨休憩時間のアイスクリーム配食は取りやめ。
- ⑩着席位置にプログラム、うがい用ペットボトル、紙コースターを配置。
- ⑪受付検温で37.5度以上の場合は退場を依頼する。必要に応じて入場制限を行う。
- ⑫退場時も全来場者に手指のアルコール消毒を依頼する。出演者には出演後のうがいの用意。
- ⑬終了後撤収時にはテーブル・イス・シールド等の消毒を徹底する。
- ⑭県内感染状況の悪化による中止も想定して準備にあたる。



図12 コンサート会場全景



図13 最前列テーブル上へのシールド設置



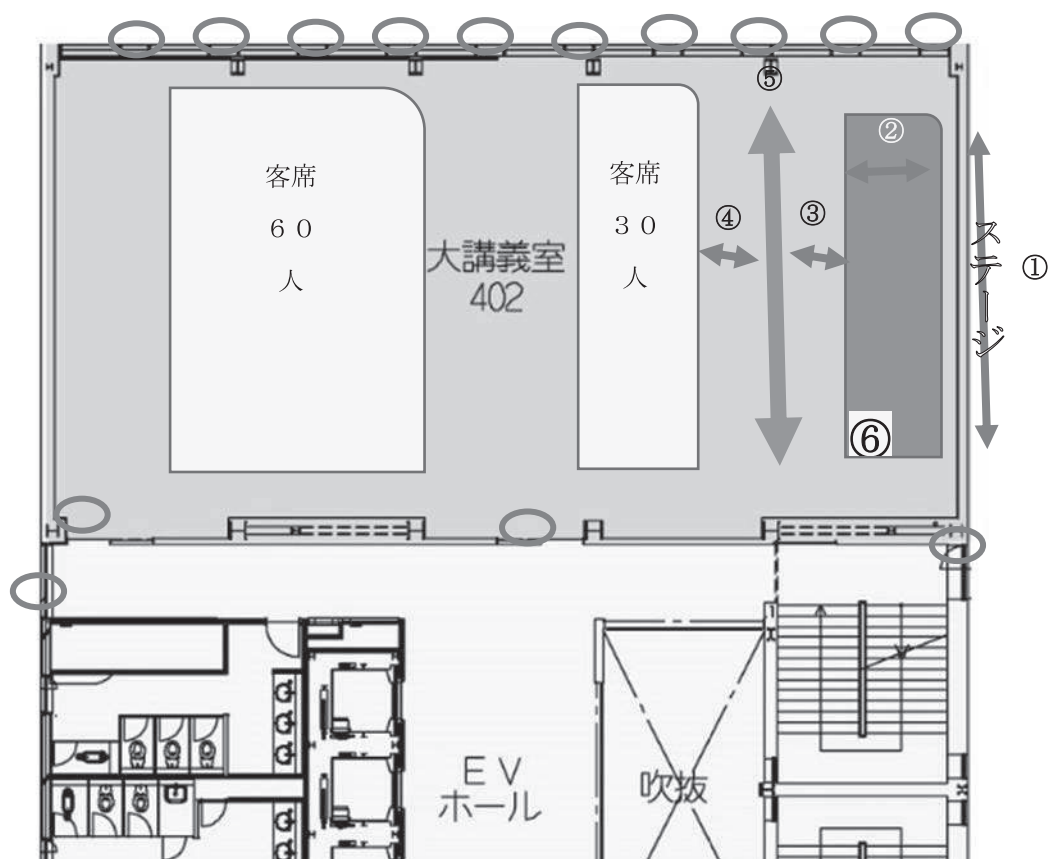
図14 コンサート会場全景(ステージからの広角撮影)

(4) 参加者数

コンサート開催当日の見込み参加者数は50人でしたが、後日、会場写真から計測した参加者

総数は68名となり、2020年の参加者総数は119名と、コロナ禍の影響もあり、例年の実績を下回る結果となりました。

教員	2名
事務局スタッフ	8名
学生スタッフ	5名
協力団体スタッフ	4名
出演者	15名
来場者	34名
合計	68名



○ 換気

- ①ステージ（教壇）間口 8.4メートル
- ②ステージ（教壇）奥行き 3.0メートル
- ③ステージ（教壇）⇄最前列机 1.3メートル【シールド設置位置】
- ④最前列机⇄第3列座席中央 1.0メートル
- ⑤シールド ⇄ 9.0メートル
- ⑥電子ピアノ

図15 第14回まちなかクールシェア・コンサートレイアウト図

(5) 第14回コンサートの反省点

今後、2021年度にコンサートを実施するかどうかを踏まえて、運営スタッフとして参加した学生からは、以下のような意見がありました。

- ①裏口から入場した観客に対して検温と手指の消毒を徹底できなかった。
- ②さらに換気をする必要がある。
- ③換気をする際、窓の外に身を乗り出すことになるので「危ない」と言っている人がいた。
- ④エレベーター横のうがい用の紙コップはあまり使われていないような気がした。
- ⑤来場者の視線が気になって、緊張してしまい、シールドの消毒が雑になってしまった。
- ⑥高齢者の方が座席に座るのがつらそうに見えた。(幸い、足腰が不自由な方はいなかったように思う)
- ⑦来年、家族が入学するので見に来たという高齢者の方がいた。
- ⑧出演者の方たちがステージまで行く通路が狭くて、少し大変そうだった。
- ⑨シールドの除菌・消毒は必要があるのか疑問。
- ⑩換気は頻繁に行う意味があるので続けるべきだと思う。
- ⑪スタッフの人数はちょうどよかった。
- ⑫検温担当は一人でも充分であった。
- ⑬うがい用の紙コップはトイレの洗面台近くに箱などに入れておいた方がよかった
- ⑭来場者同士の距離が近かったように感じた。
- ⑮退場時に4階エレベーターホールにエレベーターを待つ人たちが密集する可能性があったので、階段も使用できることをアナウンスした。エレベーターホールの混雑状況を見ながら、時間差をつけて退場してもらうようにすべきであったと思う。

3.3 シティライフ学部大学祭「すみれ祭」での活動報告

2020年11月8日(日)開催の、宇都宮共和大学シティライフ学部大学祭「すみれ祭」では、まちなかクールシェア・コンサートの活動内容を紹介するポスターを作成し、発表掲示しました。3年生セミに所属する留学生の協力を得て、ポスターは日本語、ベトナム語、中国語の3か国語で製作されました(図16)。

ポスターは、コンサート開催の目的、2014年以來の暦年の参加者総数と節電効果、2020年のコンサートの概要、2021年のコンサート開催を想定した今後の課題という4部構成で、感染症対策を考慮しての規模縮小、時間短縮の影響によって、2020年のコンサートによる節電効果が低い水準となったことが明確となる内容となっています。

4 今後の対策に関する考察

ポスターの結論部分にもなっている、今後の課題、対策については、コンサート運営に画携わった学生たちから様々な意見が寄せられたことは既に述べた通りです。このうち、特に重要と判断し得る4点について以下に説明をします。

4.1 飛沫防止シールドの効果

ステージと観客席の間に設置した飛沫防止シートは、医学的に有効であるかどうかの確証はなく、設置と消毒については疑問とする意見もありました。ただし、出演者と観客の双方に心理的な一種の安心感を与える効果は期待できるのではないかと、という意見もあり、シールドが設置されていることで、会場内の参加者が感染防止対策により多くの関心を持つようになることを期待して、今後も、設置する方向で検討を進めることになりました。

4.2 入退場時の密集対策

来場者の密集状態は、コンサートの入場開始時間に当日のプログラム等資料を受付で渡す時点と、コンサート終了時にエレベーターホールでエレベーターの到着を待つ時点で発生する可能性が高いことが、今回のコンサートで明らかになりました。これらの対策として、8月のコンサートでは、受付では検温と手指の消毒のみを来場者にお願ひし、資料と給水用のペットボトル等は観客席にソーシャルディスタンスを確保する形で予め配置することにしました。退出時には、今後、エレベーターホールの混雑状況を勘案して時間差での退出のアナウンスをする必要があります。

4.3 消毒・換気対策の再検討

コンサート開催中は、出演者の交代時間を利用して、マイク、飛沫防止シールド、ステージの床等を頻繁に消毒し、会場の換気も同様の間隔で実施しました。消毒のタイミングについては、コンサートの進行等の関連も考慮して、毎回、消毒すべき個所と一定の間隔をあけて消毒する個所を区別する必要があるようです。換気のタイミングについては、会場の混雑の具合等も考慮し、高い頻度で行うことが望ましいとの意見が多くありました。

4.4 着席情報の把握と管理

コンサート運営スタッフの議論の中にはありませんでしたが、コンサートやシンポジウム等のイベントでは、来場者の着席情報の把握と管理が必要な場合もあります。イベント参加者に万一、感染者があった場合には、その方の周囲、前後左右の参加者の着席情報を把握し、適切に情報提供をする必要があるからです。着席情報の把握と管理には、イベントへの参加を事前申込制とする方法、会場の座席に番号を着けて、アンケート票等に住所、氏名と併せて着席した座席番号を記入してもらう方法の2つが考えられます。

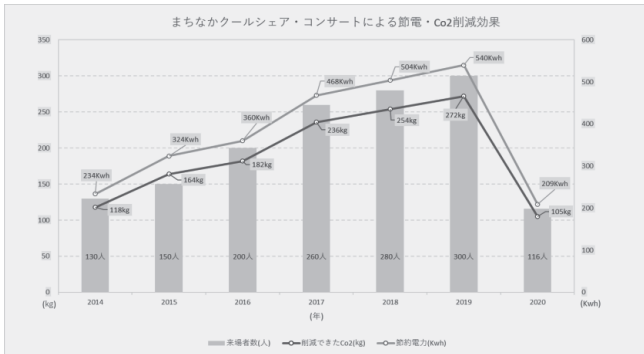
クールシェアとは？
 一般家庭の電力消費がピークを迎える午後、エアコンを止めて外出し、空調の効いた公共の場所などで涼しさを分かち合うという、省エネ、地球温暖化防止のための活動のひとつ。内藤ゼミではコンサート来場者数をもとに地域の節電効果を試算する調査を続けており、その結果はゼミ生の卒業論文などにも活用されています。

**新型コロナウイルス感染防止策に配慮したまちなかクールシェア・コンサートの実施
 宇都宮共和大学シティライフ学部内藤マーケティング論ゼミ**

1. まちなかクールシェア・コンサート開催の目的

私たち内藤マーケティング論ゼミでは、2014年以降、まちなかクールシェア・コンサートを開催してきました。2020年は新型コロナウイルス（COVID-19）の流行によりコンサートの開催は危ぶまれましたが、感染防止対策としての新しい生活の導入や外出自粛などの生活を余儀なくされているキャンパス周辺の住民の皆さんのために、コンサートの開催を決めました。「心に染みる音楽でつづる癒しの瞬間」というテーマで、参加された皆さんに楽しい時間を過ごしていただけるように、また、安心して音楽を聴いていただけるように、複数の感染防止対策を取り入れたコンサートの開催となりました。

2. まちなかクールシェア・コンサートの節電効果



2019年のコンサートで削減できたCo2の量272kgは、テレビが1日に排出するCo2の量の298日分に当たります。



$$272\text{kg} \div 38\text{g} \div 24\text{時間} = 298\text{日}$$

2919年のコンサートで削減できたCO2量 ÷ 1時間当たりのテレビのCO2排出量

$$0.6\text{kW} \times 3\text{時間} \times \text{来場者数} = \text{節電効果 (kW)}$$

夏日中午後2時のコンサート2回分のエアコンの電力消費量 × コンサート2回分の平均的開催時間

$$\text{節電効果 (kW)} \times 550\text{g} = \text{削減CO2量 (kg)}$$

1kWの発電で排出されるCO2量

資料：栃木県地球温暖化防止活動推進センター

3. 今年のコンサートの概要について



4. 今後の課題（2021年コンサート開催に向けて）

- ①消毒
 - ・検温や手指の消毒をしていない人も
 - ・シールドは医学的に有効か？（安心できるだけ？）
 - ・床やシールドの消毒は必要か？
 → シールド設置の必要性を再検討する
- ②換気
 - ・換気は重要
 - ・換気作業の安全性は？
 → 安全で効率的な換気方法の確立
- ③会場レイアウトと運営方法
 - ・通路の狭さ
 - ・終了後のEVHの混雑
 → 時間差でのエレベーター使用の指示

図 16 すみれ祭内藤マーケティング論ゼミ研究発表ポスター（日本語版）
 2020年11月8日

参考付表：内藤マーケティング論ゼミ学生スタッフ役割分担（学年は2020年現在）

事前準備

- ・学生ホール風向調査 2年 四家舜葵，今村詠美，グエン ティ フォン，
ルオン スアン ドン
- ・シールド製作 3年 齊藤拓弥，小林亮太，上田綜人，福田勇佑，大金史華，
成田歩夢，芳士戸優太，小林春樹，横森 涼，石井介士，
グエン ティ トウエット ルー ティ ガ，邵樺

第13回コンサート運営スタッフ

- ・司会進行 3年 大金史華
- ・ステージ運営 ♪ 石井介士
- ・音響 ♪ 上田綜人
- ・受付・客席担当 ♪ 成田歩夢
- ・来場者数計測 2年 四家舜葵，今村詠美，グエン ティ フォン，
ルオン スアン ドン

第14回コンサート運営スタッフ

- ・司会進行 3年 小林亮太，芳士戸優太
- ・ステージ運営 ♪ 小林春樹
- ・音響 2年 樽井龍希（渡邊ゼミ）
- ・受付・客席担当 3年 横森 涼
- ・来場者数計測 2年 四家舜葵，今村詠美，グエン ティ フォン，
ルオン スアン ドン

すみれ祭ポスター発表

- ・構成 3年 小林亮太，芳士戸優太，大金史華
- ・節電効果分析 ♪ 上田綜人，横森友哉（小浜ゼミ）
- ・翻訳 ♪ グエン ティ トウエット，ルー ティ ガ，邵樺
- ・掲示設営 ♪ 福田勇佑，成田歩夢，横森 涼
- ・説明 ♪ 齊藤拓弥，小林春樹